

春陽会富山研究会



研究主任 中山 里美
2021年度 会員 19名



富山県では.....「富山」の地名を「とやま」ではなく「とやま」と平仮名に発音します。また、他県では「とやま」と発音するところが多いということです。ということで、本研究会は「しゅんようかいとやまけんきゅうかい」と発音していただければ有り難いです。

【本県の特徴】

富山県は、四方を海と山脈で区切られ、東の新潟県との県境は難所「親不知」として知られる。西部は倶利伽羅峠を挟んで石川県と接しており、戦国末期には両国の前田利長と佐々成政が争った。その後羽柴秀吉により、越中は前田利長に与えられ、江戸時代の越中は加賀藩とその支藩である富山藩に統治されていた。廃藩置県後、分離独立する形で富山県が成立した。

南には飛騨山脈（日本アルプス）が控え、山間部には「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産に登録されている五箇山、立山信仰などの山岳信仰で有名な立山連峰、山岳観光ルートの立山黒部アルペンルートなどがあり、日本で唯一、氷河が現存する。北は富山湾（日本海）に面して、ホタルイカの群遊海面、氷見ぶり、白エビ、蟹気楼の見える海岸で有名である。

県民悲願の北陸新幹線が開通しており「ぜひ、とやまにきてみられ」ということです。

【本研究会の年間事業】

〈デッサン会〉

年に2回、裸婦デッサン会を行っています。以前はスケッチ会なども行い、絵画の基礎となる技能習得の研修とされています。

〈夏季研修会〉

夏季研修会は、泊を伴いじっくりと時間をかけて研修をします。材料研究や下地研究等の実技研修を伴った研修会であったり、絵画理論や絵を描く意味等の講義形式の研修会であったり、多種多様な講師の方から、様々なやり方でご指導いただいています。近年では、峰先生には黄金背景テンペラにおける金箔貼りの技法、三浦先生には、シルバーポイントの実技研と絵画に脈々と流れる文化論のお話し、館先生には実技研修として、パネル製作を教えてくださいました。



峰先生から箔貼り方法を伝授

館先生から誰でもできるパネル作りを学ぶ

【本研究会の特徴】

本研究会のモットーは、「よく飲み、よく学び、よく描く」で、夏期研修会、春陽会富山研究会展では、そのモットーに従っています。懇親会ではとことんまで飲みます。研修会や講評会では、学ぶ姿勢を表に出して探求心をもって参加します。

そして、本展、研究会展、小品展だけでなく、様々な会派の仲間とのグループ展や個展なども精力的に行っています。近年は地方研究会同士の交流にも取り組んでおります。年齢も20代から80代まで幅広く、互いに刺激を受けて自己研鑽のため切磋琢磨しています。



2020春陽会富山研究会7-カイク'展（西田美術館）

〈春陽会富山研究会展〉

年末の12月に年一回、富山県民会館美術館において、展覧会を行っている。50号以上の作品を2点程度発表し、本部より講師を招き、公開講評会を行っている。公開講評会は3時間程度の限られた時間なので、その後懇親会を設けて、引き続き作品についての話を聞く時間としている。



2020富山研究会展会場風景

公開講評会

〈春陽会富山研究会小品展〉

春陽会富山研究会展と併設したり、夏期に単独で開催したりと時期は変動的であるが、他の研究会との合同点という形でも開催している。近年では、静岡、長野、神奈川、福島、関西、島根等との交流展を行っている。



2020富山研究会小品展

【連絡先】事務局 山村 泰雄

春陽会 富山研究会



2020春陽会富山研究会アーカイブ展（西田美術館）



3月 残照でピンク色に染まる立山連峰

よく呑み・よく学び・よく描く

本研究会のモットーは、「よく呑み、よく学び、よく描く」です。夏期研修会、春陽会富山研究会展は、そのモットーに従い、とりわけ懇親会ではとことんまで語り、呑みます。また研修会や講評会では、学ぶ姿勢を前面に出し、探求心をもって参加しています。

そして、本展、研究会展、小品展だけでなく、様々な会派の仲間とのグループ展や個展なども精力的に行っています。近年は地方研究会同士の交流にも取り組んでいます。年齢も20代から80代までと幅広く、互いに刺激を受けて自己研鑽のため切磋琢磨しています。

事務局連絡先 yy_yama@384.jp